

2021 年度 会費・ご寄附のご依頼

～昨年度の会費・ご寄附のお礼 並びに今年度、再度の会費・ご寄附のお願い～

歴史が大きく展開しています。新たなオミクロンの流行の兆しの中で、師走を迎えました。

お陰様で、多くの皆さまのご支援を賜り日本財団の助成金を得て、念願の調査研究

「東京都における養育支援訪問事業の改善課題に関する調査研究」

～子育て経験者・ヘルパー等が行う育児・家事援助を中心に～

の調査を今年度4月より開始することが出来ました。

この調査研究は、家庭の中で不安と孤独に苛まれている子どもたちに、育児・家事援助を通して訪問支援者が関わることで、子どもたちの精神的回復と自己肯定感を育み、成人してからもギャンブルや薬物等の嗜癖に陥らない人生を歩んでほしいということが目的です。

4月には自治体から養育支援訪問事業を受託して訪問事業を実施している事業所3か所に具体的な事業内容を確認させてもらい、その上で、自治体へのアンケート調査の項目を抽出して、8月、アンケート用紙を完成させ、9月初めに東京都全自治体の子ども家庭支援センター62か所にアンケート用紙を郵送しました。11月末までに56か所の自治体から回収することが出来ました（回収率90%）。現在、アンケートの結果から育児・家事援助を積極的に実施している8自治体を選びだし、訪問インタビューに回って、実態把握をしているところです。

まだ調査研究の半ばではありますが、調査研究の目的である子どもたちの精神的回復にこの事業が寄与しているかと言えば、家庭への育児・家事による訪問支援が全く実施されていない、或いは僅かしか実施していない自治体が多く、まだまだ不十分な状態であることが見えてきました。東京都の自治体ですら不十分な状態であるとする、全国の自治体の子ども家庭支援センターでの実施率はさらに低いのではないかと推測されます。

来春には、調査報告書が出来上がり、東京都の養育支援訪問事業の改善課題が見えて来ますので、その成果を礎として、もし可能ならば、新たに助成金申請をして、全国調査を実施出来ればと次のステップを考えております。

コロナの影響で貧困家庭の増加、特にシングルマザーの貧困の増大はその子どもたちに直結しています。親の気持ちが不安定になれば児童虐待とも直結して、その結果は少年事件とも直結していきます。直ぐに親子分離しなければならない事例以外の大多数の児童虐待では親を支えると共に、親以外の支援者が子どもの気持ちを受けとめて精神的回復に至るプロセスを養育支援訪問事業の中の育児・家事援助事業によって全国の子どもたちを救っていきたく強く思っております。どうか2021年度も、引き続き会費・ご寄附にご協力いただきたく、重ねてお願い申し上げます。

銀行振込 口座番号 みずほ銀行 成城支店 普通 8045776

口座名義 特定非営利活動法人日本子どもソーシャルワーク協会

郵便振替 口座番号 00190-3-659676 (右詰め)

加入者名 NPO 法人日本子どもソーシャルワーク協会

2021年12月

特定非営利活動法人 日本子どもソーシャルワーク協会

理事長 寺出 壽美子